

広報

環境カウンセラーちば

第33号

特定非営利活動法人
環境カウンセラー
千葉県協議会

環境カウンセラーは、環境省に認定された環境の専門家です。
環境調査、環境管理・監査、廃棄物対策、環境教育・学習などお気軽にご相談下さい。

2008年を迎えて

ー環境カウンセラーおよび環境カウンセラー千葉県協議会として何をすべきか

理事長 戸村 泰

環境カウンセラー千葉県協議会は、平成10年2月8日に設立されましたので、10周年を経て今年は新しい10年の幕開けの年となります。

地域の行政、教育機関、企業(事業者)、NPOや市民との協働に、ようやく少しずつではありますが、手応えを皆さんも感じているのではないのでしょうか。

我々の協議会ならびに環境カウンセラー個人々の活動も、過去の実績と信頼をベースに、順調に前進していると感じています。会員数も徐々に増え、それにも増して、目に見える活動をされる会員が増えていることを頼もしく思っています。

2008年は、何と言っても、地球温暖化問題に対しどう我々が活動するかが最大の課題となります。

京都議定書の目標の約束期間なることや、洞爺湖サミットでのポスト京都議定書問題の進展など目が離せません。

今年は、市民の方々に対策をお願いする機会が多くなると思いますが、これには、昨年の秋季研修会(11月10、11日、会員22名参加)で得たIPCC第4次報告書など最新の情報(環境省：世一氏講演)などを、よく勉強し、より正確できめ細かな活動をするよう務めましょう。

企業の働きかけについては、ISO14001やISO9000及び中小企業に最も相応しいシステムであるエコアクション21をベースにした企業の温暖化対策(ひいては環境経営)のお手伝いがあり、重要な活動です。

最近、当協議会で力を入れているのが、環境学習の分野です。2005年10月に県立船橋北高校の総合学習の授業(独自の8つのプログラムと20数名の講師派遣)で始まった高等学校との協業は今日まで3年間3校23教室の実績が出来ました。「社会に巣立つ直前の高校生に社会で生じている様々な環境問題を理解し、自ら

の行動に反映してもらおう」という理念に賛同する学校と積極的に協働していきたいものです。

新しい動きとして、「水問題を考えるグループがないのはさびしい」という古畑さんの一言から発足した水環境研究会は会員有志で研鑽を重ねており、現在県との協働事業を提案しつつあるまでに成長しています。

そのほか、廃棄物対策センターや活動を支えるスタッフ部門(事務局、総務部、事業部、情報部、広報部など)も益々充実して行きます。

こうした活動は、ボランティア精神に支えられ、「創造力・遂行力が求められ、自己実現に挑戦する場が与えられている今、私たちは心意気を持ち情熱を傾け、ベクトルを併せて問題解決に立ち向かう」(土田前理事長の言)姿でありたいと思います。

自然観察会は、10周年を記念して、楽しい八幡平への2泊3日の旅を計画しています。お楽しみに♪

総会のご案内

日時：2008年5月25日(日) 13時～

場所：千葉市民会館

特別講演：(独)国立環境研究所

工学博士 芦名 秀一 氏

「低炭素社会の構築に向けたロードマップ」
総会終了後、懇親会、新入会員歓迎会を開催。
会場：ペリエホール

詳細は4月20日頃、案内状を発送致します。
参加締切りは5月8日の予定です。

会員の皆様のご参加をお願い致します。

「ちば野菊の里浄水場」を見学して

アースコン・マツド 茂木久子

このたび環境カウンセラー千葉県協議会の1月22日の施設見学会にお誘い頂きました。

私は井戸水で育ちました。30代半ばまで大変美味しい水を頂ける自然環境の中にいたからです。一歳の子と共に都会のマンション暮らしが始まり、一番のカルチャーショックは「不味い・臭い」水道水との出会いです。「この水で子どもの命が守れるのか？」疑問でした。その頃は度々里帰りをしたものです。

野菊の里浄水場は、松戸市栗山に平成19年10月に完成、給水能力6万m³/日で松戸市・市川市・船橋市の各一部に給水されています。57.8kW(約410m²)の太陽光発電設備を備え、管理本館の排気ファン等の電源として、使われています。

浄水場の名称は一般公募され、近くにある伊藤左千夫の野菊の里記念碑にちなみ、付けられたものです。

震災用の給水蛇口から水を飲んでみました。かすかに塩素臭が残りましたが技術・処理装置等の向上や関係者の努力により随分よい水になっていると実感しました。しかし、もっと早く皆が気づき、自然循環を壊し・川を汚さなければ、財政も人力もこんなに使うことはなかろうと思わざるを得ませんでした。(H6年～H19年の建設総事業費は約318億円)

「水の確保」は今世紀大変重要なことです。別府市で開催された07年12月「アジア・太平洋水サミット」では、水危機が各国の首脳・環境問題担当の関係閣僚や国際機関の代表から訴えられました。都市化・人口増による水問題は大変深刻であると報じられています。

治水対策・飲み水確保の為に利根川水系の水不足が生ずる時間が一日も先にと願わずにはいられません。環境への責任は「共通だが差異のある責任」と呼ばれており、国際的にも認められているとか。

浄水場に確保された県民利用のスペースには、木々をたくさん植え緑豊かな場所にと願うものです。幸い施設周辺には、矢切の渡し・柳原水門・野菊の墓文学碑などの名所があり、散策も楽しめます。

大変印象に残ったのは、環境カウンセラーの方が飲食用とその他に使用する水を分けての配水がよいのでは？と発言しました。私も同感です。何故なら飲食以外にコストの高い水を使うことに利用者として心痛めていたからです。新たに乗り越えなければならないことがあるかもしれませんが視点を変えてより効果的に、有効に給水される日がきますように。

千葉市民活動センターまつり

野口 康男

去る2月2日(土)、3日(日)の2日間千葉市民活動センターまつりが開催された。入場者：624名

「大人も子どもも出会いから」をテーマとした、NPOや地域団体活動発表の場である「千葉市民活動センターまつり」にEC千葉として出展参加した。

1. 千葉市民活動センターまつりの状況

49団体が参加し出展とステージ企画、体験相談コーナー、展示・飲食コーナー、剣道・柔道、料理実習、体操・ダンス及び人形劇と多彩な催しとなって、見学者も夫婦や親子での参加が多く見られた。3日は大雪で見学者は激減であった。

2. EC千葉の出展内容 約100名参加

1) パネル展示

- ① EC千葉の活動紹介
- ② 環境学習活動紹介
- ③ 我が家の省エネルギー作戦の現状

2) 実演

「省エネ照明装置」で白熱球と蛍光灯の電流値を確認し、白熱球の交換を提案した。

「我が家の電気料金」では世帯人数毎で電気料金/月をプロットして、他の家庭との違いを比較確認してもらった。省エネパンフレットを配布して家庭での節電方法を知らせた。53名の参加だった。

3. 感想

「電気料金教えてください」と声をかけ、それから話が発展し、省エネの実施状況などの話を聞きそして説明することができた。会話が成り立つ、このような催しは効果があると思う。



左端「省エネ照明装置」 戸村・野口両氏

東金アースセレブレーション

二宮 恵

去る1月26日(土)東金文化会館でアースセレブレーションが開催された。今年は東金市、九十九里ISOネットワーク協議会、NPO法人環境カウンセラー千葉県協議会、ときがねウォッチング、ストップ the 温暖化・東金の共催で行われた。

1. 【バイオ自動車】(阿部邦夫さんの出展)

阿部さんが運営している和卿園のバイオマスプラントで牛糞を発酵させ製造したメタンガス燃料で走る軽トラックの展示。阿部さんは海外出張で欠席、代わりに和卿園の技師2名の応援を得た。

2. 【ソーラーカーレース】(小関光二さんの出展)

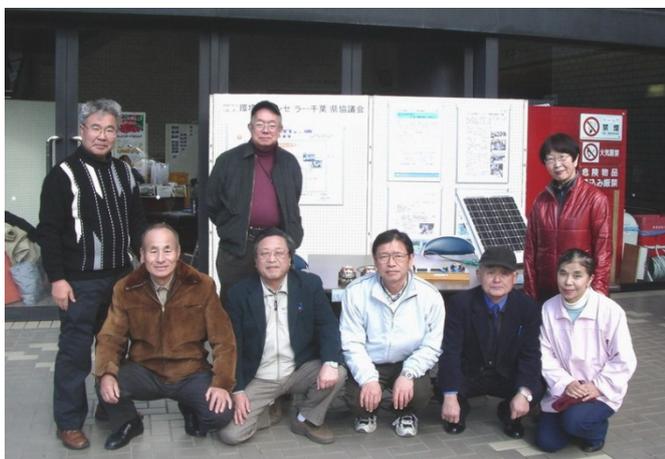
平成17年度我が家の環境大臣「エコファミリーレポート」優秀賞を受賞した小関さんが手づくりで作成した太陽光利用の模型自動車の展示及び実演。

太陽光で発電した電気をキャパシターに貯めキャパシターを模型自動車に取り付けて走らせるもの。

当日は天候に恵まれ短時間で充電でき何回でも実演できたので子供達は満足そうであった。

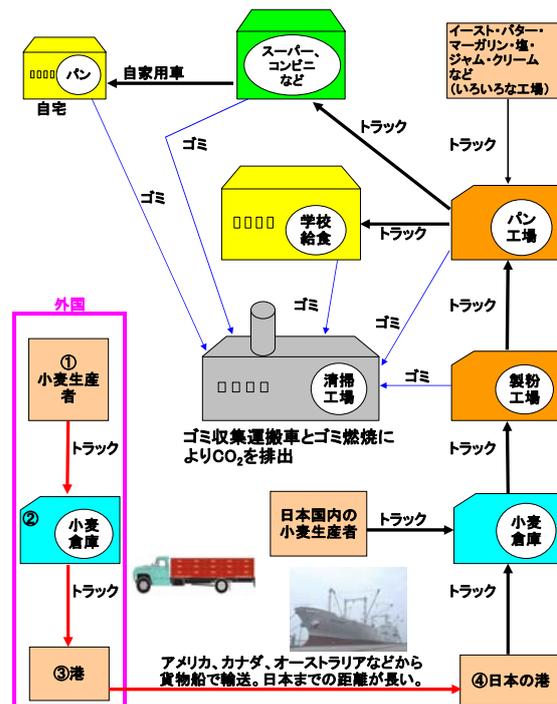
屋外の入口右側で場所は最高、環境カウンセラーの案内パネルの他、「バイオマス利用例」「太陽光を活用しよう」のパネルを掲載してPRした。

今回のアースセレブレーションでは映画「生命(いのち)をはぐくむ地球—私たちの青い惑星」、展示「小学生が描いた環境イメージ画」に並行して「ときがねウォッチングの自然の素材を使ったクラフトづくり」「ストップ the 温暖化・東金の環境家計簿の付け方講習会」「大里総合管理の豚汁コーナー」「九十九里ISOネットワーク協議会関係」が7ブース出展していた。約500名の参加者を得て昨年と比べると大幅な増員だった。中でも豚汁が好評で500食以上出たという。



お疲れさまでした♪ (当日のスタッフ)

～パンが食卓にやってくるまで～
移動(運搬)のためのエネルギー消費とCO₂排出(フードマイレージ)



①→②→③→④までの距離が長いと「フードマイレージ」の値が大きくなり、CO₂排出量が多くなる ⇒ 「地産地消」が地球温暖化防止に有効

3. 【フードマイレージ】(報告:山口由富子)

『フードマイレージ』のブースは会館入り口の取り付きで、入館した人たちからは動線的にみると後ろ向き。客足はまばらで、しかも提供品もないことから、素通りしがちな場所。親子連れと見ると、積極的に声をかけた。『ねえ、ねえ君。パン好き?』と。

パネルは小野鈴子さん作成の『パンが食卓にやってくるまで ~エネルギー消費とCO₂排出の考えかた~』(右図)とおんだん館から借りてきた6カ国のフードマイレージを比較したもの及びキウリ・トマトの露地栽培と温室栽培とのCO₂排出の比較図。

見学の方々は、何気なく食べている食品のほとんどが、遠く外国から取り寄せたものであり、日本の食物の自給率が40パーセントであることから、フードマイレージの数値が日本はフランスの8倍にもなることなどに驚きの声を上げていた。

印象的だったのは、兼業農家男性の「もう、ダメですなあ」という苦渋の声。そして県立東金高校生3人組の「これからの地球、あなた方に任せますね!」という声かけに「はい!」と力強い返事が返ってきたこと。

そして、初めて参加した私個人の感想は、「アースセレブレーション」と銘打った企画だけに、出展者個々の祭典ではなく、環境問題においてはすべてが関連しあっているということを感じあえるようなレイアウトがほしいと感じたことです。

八千代市での活動

八千代自然と環境を考える会 八千代環境市民連絡会

代表 佐藤 素子

「八千代自然と環境を考える会」は生協の「身近な水辺や大気の簡易調査」に参加した人たちが、この測定を系統的に続け、地域の環境保全活動に発展させようと1992年6月に12名で発足しました。

我が家は印旛沼の流入河川のうちもっとも水質が悪いといわれている桑納川流域であったことから、桑納川の水質調査に特に関心がありました。

何度かの水質調査を通じて、大雨が降ると一気に水量が増え水質が良くなることや、雨の少ない時は最下流まで水質が悪いままであることなどよくわかり、雨水を溜め少しずつ川に流すという雨水の涵養の大切さを実感しました。

水質調査であちこち歩く内に、谷津田、斜面林など小さな自然が素晴らしいことにも気がきました。植物調査を続けていたグループから水田の雑草であった在来の野草が水田基盤整備工事で全滅するので、保存活動をしたいと聞いたのはちょうどその頃でした。幸い、300坪ほどの休耕田を無償で貸してくださる地主さんが見つかり、保品野草保存園として植物のグループと合同で管理していくことになりました。

以来、ほぼ毎月1回の野草保存園活動日を設け、開発や水田改良工事のため消滅しそうな在来野草を移植し、草刈や水路の保持などの管理を行っています。両脇の斜面林が風をさえぎり、しみだし水が豊富で、在来の植物相もかなり残存しているので、草取りひとつにも気を使います。移植したものは順調に増えているものもあれば、根腐れを起こしたり、旺盛な種に押されて消えたものもあり、保存園としての維持管理は難しいですが、調査活動と並んで会の重要な活動となりました。

2005年には、植物リスト、活動内容、市内での状況などを「在来野草保存活動-10年の歩み」として冊子にまとめました。保存園のある保品間谷津は市内に残る谷津田としての動植物が豊富で、その全体の保全が強く望まれています。私たちの保存園も谷津田植物の保全に一役担えたらと思います。

水質調査では、窒素分の増加傾向が気になります。この原因は湧水が関係するのではと2004年から2005年、専門家の協力も得て市内の11か所の湧水地の湧水量や水質についてほぼ6回の調査を行い、2006年9月、湧水マップを作成し、フォーラムを開催しました。



サポセン祭りの展示

湧水量は2ヶ月間雨のほとんどなかったときも枯れることはなく各所で水質は異なり、また水の由来が相違することやCODや硝酸性窒素が多い湧水もあることなどがわかりました。また、小さな湧水でもサワガニやオニヤンマが生育していて、自然の豊かさを支えていることがわかりました。今後の湧水量も気になりますが、調査をボランティアで継続していくことは非常に難しく、現在は年2度の水質調査だけ行なっています。行政においては河川の水質調査だけでよしとせず、湧水も市で測定するようになればと願っています。

市内では、現在も多くは林が開発される一方で荒地や放棄田が目立ちます。「八千代自然と環境を考える会」はメンバーの硬直化、高齢化があり、課題も多いのですが、保品の風に癒され、多くの人との出会いを生かし、新しい展開をしていく所存です。

そして八千代環境市民連絡会発足へ

これらの調査活動を踏まえて、行政への提言、協力、他団体との交流、市民への活動紹介などを積極的に行っていきますが、さらに市内の環境問題に取り組む団体や関心のある個人の交流を促進しようと、2002年5月に「八千代環境市民連絡会」を発足させました。

連絡会では、里山保全やゴミ問題などをテーマに勉強会や市民交流会を重ね、里山シンポジウムや「横浜G30」の取り組みに学ぶ講演会に繋げることができました。現在は定例会を2ヶ月に1回開いて情報交換に努め、各自の環境保全活動の一層の推進と充実を図っています。本会の有馬顧問や本間理事もメンバーとして会の運営に一役買ってくださいしています。

八千代環境市民連絡会には有馬さんの尽力でホームページがあります。

<http://www.geocities.jp/kankyosimin/>

是非一度ご覧ください。

総務部からのお知らせ

寄付金(2007年11月5日～2008年2月26日)

小関光二様 3,600円 服部達雄様 10,000円
 野口康男様 3,000円 山本光男様 18,000円
 國廣隆紀様 1,500円 二宮 恵様 15,000円
 種本利治様 4,500円

有難う御座いました。

印旛沼浄化推進運動

——四街道から参加—— 大山長七郎

3月19日(水)印旛沼の水質浄化事業の一環で、白井市流域の神崎川と二重川周辺の一斉清掃が実施された。

県水質保全課湖沼浄化対策室の呼びかけで各市町村、環境団体、水質モニター、一般市民、総勢100名が参加した。環境カウンセラーではモニターの大山と環境団体の倉田の2名が参加した。3班に分かれて、1時間30分、各人が分別袋を手に清掃区域を回り、投棄物を袋一杯にして戻った。

千葉県は不法投棄のワースト県でもあり、湖沼水質も同様で、ここ神崎川も河川水質はワーストの部類に入る。冬枯れの川岸やその周囲からビン、缶、ペットボトルなどのほか、家庭からの大きなゴミも回収され、ポイと無造作に捨てる人が多いことが分かった。ゴミは2トントラック2台分になった。

翌日20日NHK総合TVでは19:30より、「ワースト脱出大作戦・日本最悪の汚名返上」についての番組があり、数年前全国で一番汚い川であった、千葉県は市川市の春木川の取り組みが全国放映されたのだ。ゴミとヘドロの川は、市民の協力で平成19年度はワースト3位になったが、BOD基準値はまだまだ高い。

汚い川と見ていて見るだけではよくなる。現状を県民にPRし、一人一人が「環境ウォッチャー」として環境再生をしていく必要がある。ゴミと水質の関係に思いを馳せて欲しい。

ECU 便り

本間 格

地球環境基金助成事業「地球温暖化防止活動推進員を地域で指導、育成、支援できる専門家の養成」の実施項目である専門家養成講座が、2月12,13日(さいたま新都心合同庁舎)、3月1日(北区滝野川会館)の3日間開催された。

当協議会からは戸村、服部、辻川、林、上口各氏が参加し、ECU 関東ブロック枠で土田氏と本間が参加した。講座は土田氏の総合司会の下、関東各都県から合計42名が参加して行われた。

セミナーは環境省の世一良幸氏の基調講演に始まり、「地球温暖化の実態、解決策としての緩和と適応」が解説された。その後ミニ講演を挟み、緩和と適応策の技術とマネジメントについて、6グループに分かれワークショップを行った(初日および2日目)。

3日目はグループ毎(前回までと同じメンバー)に環境政策提言案をまとめた。そのまとめをグループ毎に持ち帰り更に練り上げ、年度末までに各グループの最終案から1ないし数編を ECU からの提言として環境省へ提出することになった。詳細は次号。

<<編集後記>>

♪ 今回、施設見学会はアースコン・マツドの茂木さん

に書いて戴いた。有難う御座いました。

ところで日本の安心・安全は如何なってしまったのだろう、イージス艦や冷凍餃子、製紙会社の古紙混入率の偽装! いい加減にして欲しいものだ。

(本間 格)

♪ 神崎川にもセイタカヨシがありました。

大山さんは「節から枝分かれしていますねえ」

ゴミ拾いだけでなく、ちゃんとポイントをつかんだ自然観察をしておいででした。さすが☆!

楽しみながらゴミ拾い! 次回はあなたも参加しませんか。

(倉田 智子)

広報 環境カウンセラーちば 第33号 (発行日 2008年4月6日)

発行: 特定非営利活動法人 環境カウンセラー千葉県協議会 (発行責任者: 戸村 泰 会員: 130名)

URL: <http://www005.upp.so-net.ne.jp/ec-chiba/index.htm>

事務所: 〒261-0011 千葉市美浜区真砂3丁目18番2棟505号 戸村 泰方 (郵便宛先)

事務局: Tel& Fax 043-276-7300 服部達雄 ec_chiba_exec@yahoo.co.jp (各種ご相談、お問い合わせ先)

郵便振替口座: 00110-5-34692 (加入者名: NPO 法人環境カウンセラー千葉県協議会) 会費はこちらに!

編集: 広報部 倉田智子・本間 格・上口清彦・二宮 恵・松本源寿・佐藤素子

E-Mail fwkd4421@ymail.plala.or.jp (記事寄稿先)

再生紙を使っています。混入率は不明です。